

女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報



ウィメンズブックス

New24号 2007年2月25日

ウィメンズブックスストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

目次

巻頭言 「私の内なる軍事文化」 山下英愛	(1)
最新刊情報 新刊本を解説付きでご紹介しています	(2)
ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です	(14)
編集長の著者インタビュー 「女の遺言」の著者 麻鳥澄江さんに聞く	(15)
HOT・FILE	(15)
ウィメンズブックスストア TOP5 (11・12・1月)	(16)
Women's Books からの風 「ウィメンズ ブックス」のニュース・お知らせなどのページです	(16)

(本誌内で紹介している価格は、消費税5%を含んでいます)

私の内なる軍事文化

昨年、権仁淑さんの『韓国の軍事文化とジェンダー』（御茶の水書房）という本を翻訳した。私が権さんに強く関心をもつようになったのは、「進歩、権威、そして性差別」という彼女の短い文章を読んだのがきっかけだ（林志弦他著『私たちの内なるファシズム』三仁、2000年所収）。この中に、権さんが軍事政権下の1970年代に過ごした子供時代のこととが少し出てくる。ベトナム戦争終結後に韓国で反共主義が一層高まった「国家的集団動員と狂信の時代」（p.141）に、権さんも地元で開かれた大規模な反共決起大会で旗手を務め、悲壮な覚悟をしたことなどである。私はそのくどくどを読んで自分の小学生時代の記憶と重ね合わせた。

60年代から70年代初めの六年間、私は崔英愛という名前、東京にある朝鮮総連系の初級学校に通った。今は朝鮮学校もすっかり様変わりしたようだが、その頃、私が算数の九九以上に頭に叩き込まれたのは「金日成元帥様」とその一族を中心とする革命活動史だった。高学年になると、北朝鮮を祖国に持つことができて本当に幸運だったと心底感謝し、いずれは北朝鮮に帰って祖国建設のために働く」と心に誓った。

いわば、私と権さんは、南北朝鮮が「共産主義」と「反共主義」を掲げて敵対し合う中、互いに理念的には正反対だけれども、全体主義的な教育という点では共通する体験をしていたのだ。私の場合、親が総連を辞めたため中学から日本学校に通い、それまでの価値観や世界観を強引に「捨てさせられた」が、権さんの場合は大学入学後に学生運動に加わることで、新しい世界観を築いていった。権さんと同様に、90年代に「386世代」（60年代生まれの30代で、大学入学が80年代）と呼ばれた人々の多くが似たような経験をしている。

長い間、自分の子どもも時代の体験を極めて特殊なことで思い込んでいた私は、韓国にも似たような体験をした人々

立命館大学講師

山下 英愛



がいることを発見して目からうろこが落ちた。しかも権さんは、自分たちがその頃に受けた全体主義的な教育が、学生運動の中にとどのように影響を及ぼしたのかをジェンダーの観点から掘り下げて研究し、『大韓民国は軍隊だ』（2005年、翻訳書の原題）にまとめ上げた。この本を手にとって翻訳を決意するのに五分とかなかった。

今、40代初めの権さんの世代は様々な分野で活躍している。女性運動の流れでいえば、7～80年代の民主化運動と女性運動の指導者である李効再、李兌榮、李愚貞らを第一世代とするならば、彼女たちの教えを受けた韓明淑（現国務総理）、池銀姫（前女性部長官）、李美卿（現国會議員）らは第二世代で、8～90年代の女性運動の中心的存在だった。そして、今日の女性運動を担っているのが第三世代ともいえる386世代である。

私は88年に梨花女子大学に留学して、幸いにも一年間李効再先生の指導を仰ぐことができたし、「慰安婦」問題の活動を通して、第一、第二、第三世代のいずれの人々とも知り合うことができた。また、同期の学友や今の親友たちの多くは、私より2、3歳年下の386世代である。そのような親近感の裏に子ども頃の頃の共通体験があったとするのは考えすぎだろうか。

権さんの本の翻訳を手がけて思いがけない発見がもう一つあった。子どもにはウルトラマンが暴力的だとさんざん批判しながら、軍服調を未だに脱皮できない私の衣装スタイルが、もしかしたら人民軍兵士になりたいという小学生時代の夢に由来するのではないかと思うようになったことだ。こじつけかもしれないが、弁解のためには使えそう。

(2ページに「韓国の軍事文化とジェンダー」の紹介があります)

最新刊情報

フェミニズム・女性学 …… (2)
 法律・政治・政策 …… (4)
 子育て・教育 …… (4)
 労働・仕事 …… (5)
 家庭・家族・衣食住 …… (6)
 こころ・癒し …… (7)

文学・エッセイ・芸術 …… (8)
 からだ …… (9)
 自伝・評伝 …… (10)
 セクハラ・暴力 …… (10)
 セクシュアリティ …… (11)
 女性史・歴史 …… (12)

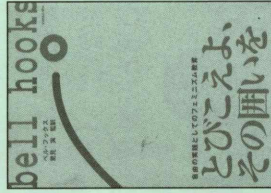
メディア …… (12)
 高橋・福祉 …… (12)
 雑誌 …… (13)
 平和・開発・エコロジー …… (13)
 資料 …… (13)
 絵本・子ども・青少年 …… (14)



〔フェミニズム・女性学〕

とびこえよ、その囲いを 自由の実践としての
フェミニズム教育

ベル・フックス/著 里見実・朴和美・堀田碧・吉原令子/訳
 新水社 2006年11月 2940円



ブラックフェミニニストとして高い評価を得ているベル・フックスの三冊目の翻訳。本書で扱っているのは「フェミニスト教育」である。自身の黒人学校での学びの喜びと、人種統合政策後の白人学校での教育の否定、大学、大学院で受けた「学問的教育」への批判を下敷きとして、「囲いから解放」するためのフェミニスト教育を希求する。「平易でラディカル」な記述は本書でもいかになく発揮されている。フェミニスト教育の神髄は「越境を可能にする教え」にあるという。

知らないときと恥ずかしい ジェンダー入門

加藤秀一/著 朝日新聞社 2006年11月 1365円
 ジェンダーについての基本的なことを丁寧に説明している。著者曰く「ジェンダーについてのほんとうの入門書」。「ほんとうの」という意味は、「予備知識は全く必要ない、しかし内容のレベルを落としていない」ということだという。



ジェンダーと社会理論

江原由美子・山崎敬一/編 有斐閣 2006年12月 2730円
 進化生物学、構築主義、アイデンティティ論、構造化論などの様々な社会理論が「ジェンダー」をどのように扱っているのかを、各分野の最前線を担う執筆陣が論述している。加藤秀一、北田暁大、古田睦美、佐藤文香、江原由美子、上野千鶴子、山崎敬一など



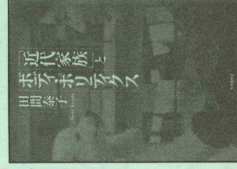
母性と仕事に揺れる三十代 イタリア女性たちは語る

マリナー・ピアッツァ/著 伊藤あき子・進藤多代/訳
 ミネルヴァ書房 2007年1月 2100円
 教育を終え、仕事を第一に考え始め、出産適齢期のタイムリミットに気持ち揺れる30代。本書では、子どもを産んだときの葛藤や心情のインタビューをもとに、イタリア女性の30代を分析。なんと、日本の30代と似ていることか。



「近代家族」とボディ・ポリティクス

田間泰子/著 世界思想社 2006年12月 3360円



近代家族がどう作られ、産むこととどう関連してきたか、時代とともに変容する姿を追っている。「子ども二人の健全な近代家族」像が、きわめて政治的な計画に沿って作られた過程が、まるで謎解きのように明かされていく。家族計画にしっかり巻き込まれてきた女たち。今また、少子化対策という名の国家的政策が行われているが。

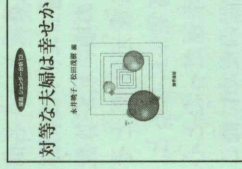
韓国の軍事文化とジェンダー

権仁淑/著 山下英愛/訳 御茶の水書房 2006年11月 2940円
 著者は、韓国の女性学、女性運動に関心をもち、人々の中では最も有名な韓国人の一人だ。韓国における民主化宣言のきっかけをつくった「富川署性拷問事件」の当事者であり、かつ女性学研究の最前線にいく人である。本書のテーマは韓国軍軍事的ジェンダー視点からの分析。もちろん日本にとって無縁のテーマではない。(巻頭言参照)



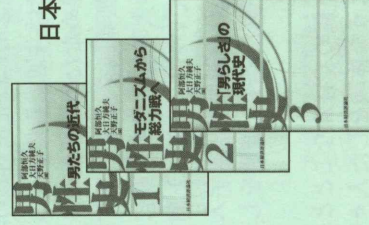
対等な夫婦は幸せか 双書ジェンダー分析13

永井暁子・松田茂樹/著 勁草書房 2007年1月 2520円
 かつて「家庭病理」として扱われていた「共稼ぎ」であるが、今は「共働き」の時代。しかし、共働モデルを支える社会システムの不備や共働モデルに積極的でない人々の意識を考えれば、「共働き」には何らかの葛藤が伴うのが現実である。本書では、共働きの夫婦関係を多面的に分析。現在起きている変化を客観的データにもとづき把握しようとしている。



男性史 1、2、3

阿部恒久・大日方純夫・天野正子/編 日本経済評論社 2006年12月 各2625円
 男性がつくった社会・国家が女のあり方を規定しているのだが、それはまた男性のあり方も強く規定しているのではないか。男性性がどのようなにつくられたか、変容したかを、ジェンダーの視点を重視して読み解く男性史。第1巻『男たちの近代』、第2巻『モダニズムから総力戦へ』、第3巻『男らしさ』の現代史。このテーマでようやくまとまったものが出た。



ジェンダーで学ぶ社会学 [新版]

伊藤公雄 牟田和恵/編
世界思想社 2006年11月 1890円
「生まれる」「学ぶ」「愛する」「働く」…といった人生のなりわいにおける性差、ジェンダーの問題の圧力を浮かび上がらせる。1998年に発行され、テキストとして好評であったものを全面改訂。編者以外の執筆者は、木村涼子、田間泰子、伊田久美子、井上治代ほか。

ファミリー・トラブル 近代家族/ジェンダーのゆくえ

金井淑子/編著
明石書店 2006年11月 2310円
「近代家族」の崩壊に伴う「ファミリー・トラブル」。しかしここでは、この「トラブル」を、否定的ではなく、問題状況を超えていこうという含意あるものとしてみる。「家族」は簡単に葬り去れるものではない。「家族」に残るもの、残すものは何なのか。

ジェンダーの視点から社会を見る 出会い 気づき つながりへ

ジェンダー・学び・プロジェクト/編
解放出版社 2006年11月 1680円
20人の研究者、活動家、行政職員などが書いた「ジェンダー」についてのリレーエッセイ集。身近なところからの「気づき」を言葉にして表現している。「ジェンダー」という、ひとことではわかりにくい言葉に「気持ち」を入れようとする試みだといつてよい。

日本の貧困 家計とジェンダーからの考察

室住眞麻子/著
法律文化社 2006年10月 3255円
「貧困」分析の場で「世帯所得」を用いると、世帯内貧困(子どもや女性の貧困)が見逃される傾向がある。家計分析には、「家計内ジェンダー関係」の議論が重要なのである。

女性学年報 第27号

日本女性学研究会女性学年報編集委員会/編
日本女性学研究会女性学年報編集委員会/発行
2006年11月 1995円
特集1:「平等」「権利」「再考」特集2:未来を元気にする「女の歴史」特集3:「気持ち悪さ」に屈しない「私」のフェミニズム

ジェンダー概念がひろく視界 バックラッシュを超えて

唯物論研究協会/編 青木書店 2006年10月 4200円
特集は「ジェンダー概念がひろく視界」。「もつと」ポスト「フェミニズムへ」(金井淑子)「時代を批判するジェンダー理論のために」(佐藤和夫)「文化的存在における多様性と画一性」(細谷実)他。

東アジアの良妻賢母論 創られた伝統

陳延媛/著 勁草書房 2006年11月 3675円
日本、韓国、中国の東アジア三国に根強い「良妻賢母論」。儒教文化に基づく封建的女性規範と見なされがちであるが、実は「近代」が生み出した産物なのである。東アジア三国にまたがる「良妻賢母論」はどのように創出され、「伝統化」されたのか。

母系社会のジェンダー インドネシア ロハ・クドウスとその時代

前田俊子/著 ドメス出版 2006年11月 4200円
世界最大の母系社会というインドネシアの西スマトラ、ミナンカバウに生まれ、インドネシア初的女子ジャーナリストであり、教育者、政治運動家であったロハナ・クドウスの活動を通して、母系社会の実態を現地調査した結果の論文。

若者とアイデンティティ

児美川孝一郎/著 法政大学出版局 2006年9月 2415円
「若者」のアイデンティティ形成の特徴や性格は何なのか、例えば、ジェンダー意識はどのように形成されるのか。

どこまで進んだ男女共同参画 学術会議叢書12

(財)日本学術協力財団/編 (財)日本学術協力財団/発行
ビュープロ/発売 2006年9月 1890円
日本学術会議でも、ようやく取り組み始めた「男女共同参画」。2005年第20期の女性会員は20%だといふ。本書は、その会議の機関紙「学術の動向」に掲載された男女共同参画に関する特集をまとめたものの執筆者は、名取はにわ、遠山敦子、江原由美子、辻村みよ子、柏木恵子、猪口邦子、大沢真理、浅倉むつ子など、多彩。

インパクション155 総反攻の論理

インパクト出版会 2006年12月 1260円
特集は「総反攻の論理 安倍政権と闘うために」。「NHK番組改ざん問題再論」(板垣竜太)「慰安婦」問題へのバックラッシュ(金子)など。

フェミニズム・天皇制・歴史認識

インパクト出版会 2006年12月 1890円
鈴木裕子/著
ご都合主義の「女性天皇」論議が「お世継ぎ」誕生によってピタリと止まった日本の現実。「女性天皇はいらない!天皇制はもつといらぬ」と変わることなく主張する著者の最近の論文を集めたのが本書。

家族の変容とジェンダー 少子高齢化とグローバル化のなかで

富田武・李静和/編 日本評論社 2006年12月 5775円
男女共同参画政策の進展が社会の趨勢となる一方で、その社会のあり方側の側面として現出する階層分化傾向。こうした中で「近代家族はどこへ行くのか」の論点には、いまだに「解」が与えられてはいない。本書ではまず、戦後日本の家族の変容をたどり(第一部)、その中で家族論の新展開を論じている(第二部)。第三部では、日本、韓国、中国の家族比較が展開されている。

おきなわ女性学事始

新宿書房 2006年12月 2940円
勝方=稲福恵子/著
ジェンダーとエスニシティ(民族的なるもの)を交差させたところに沖縄の女性学は立脚する。二つのキーワードを複眼的に捉えると、新たなフェミニズムの地平が見えてくる。

子守唄はなぜ悲しいか 近代日本の母像

石子順造/著 柏書房 2006年12月 1995円
昭和前半に活躍した批評家、石子順造の没後30周年を記念して出版された本。「母もの」とよばれた映画や歌謡曲などを考察する中で、近代になって形づくられた「母像」にせまる。30年前の著ながら、今なお興味をそそられる「母親分析」である。

人権って何? Q&A

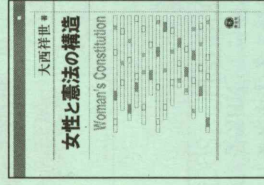
阿久澤麻理子・金子匡良 著
解放出版社 2006年12月 1575円
「人権法」と「人権教育」の研究者の共同作業の本。「人権」とは「やさしさ」や「思いやり」だけで成り立つものではないと説明。女性、部落、マイノリティ、国際人権などについてやさしく解説。

女性問題学習の研究

村田晶子/著 未来社 2006年12月 2940円
男に運れて受けられた教育は、女の人間的形成の要求を国家が求める「母」へと誘った。それは決して、大人の成長、人としての成長を得ることではなかった。むしろ、それを「良妻賢母教育」は大きく阻み続けてきた。(序論より)。社会教育における女性問題学習の歴史、記録、展開などが、丹念に調査、考察されている。女性/男女共同参画センターの講座のあり方も、このへんで真剣に考えなくては。

〔法律・政治・政策〕

女性と憲法の構造



大西祥世/著 信山社出版
2006年10月 12600円

立法、行政、司法、地方自治などで展開されてきた戦後日本の女性に関する人権保障の取り組み、枠組みを論じ、憲法における新たな展開を試みている。「固い」憲法理論と政策実践としての女性運動の展開が、少し近づいたような気がする。

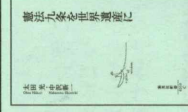
グローバル化と社会的排除 貧困と社会問題への新しいアプローチ



アジット・S・バラ フレデリック・ラベール/著
福原宏幸 中村健吾/訳 昭和堂
2005年4月 2940円

「社会的排除」とは、物質的豊かさの欠如だけでなく、将来の見通し、ネットワーク、生活の機会等から包括的に遠ざけられること。物質的な貧困よりずっと有害で、社会全体を蝕んでいくという。本書は、その「社会的排除」を多面的に分析している研究書。所与のものとしてみられるグローバル化であるが、「社会的排除」の視点から、しっかり論議されなくてはならないのであろう。

憲法九条を世界遺産に



太田光・中沢新一/著
集英社 2006年8月 693円
人気お笑い芸人として九条を遺そうとする太田光が、それをどう具体化していくかを学者・思想家である中沢新一との対談の中で、考える。憲法や日本の政治について、私たちが考えるべき事柄を二人の会話の随所から知ることができる。

新平等社会 「希望格差」を越えて

山田昌弘/著 文藝春秋 2006年9月 1500円
『希望格差社会』の著者が、「生活の場」を再建する方策を具体的に呈示。「格差」は不当ではないが、「希望の格差」は不当である。「家族主義の福祉社会」を転換させ、新しいタイプの平等社会をつくっていくと提唱。

外国籍住民との共生にむけて NGOからの政策提言

移住労働者と連帯する全国ネットワーク/編
移住労働者と連帯する全国ネットワーク/発行
現代人文社/発売 2006年6月 1575円
国境を越えた人々の移動は世界中でおこっている現象。本書は多民族・多文化共生社会をめざすための、現場にいるNGOからの政策提言。

アメリカ型不安社会でいいのか 格差・年金・失業・少子化問題への処方せん

橋本俊昭/著 朝日新聞社 2006年8月 1155円
格差、不平等、社会保障不安、少子高齢化・・・こうした諸問題を解決する方向性として著者が目を向けるのは、市場主義貫徹のアメリカではなく、政府による公共政策、平等志向のヨーロッパ。日本で経済効率と公共性の両方を達成することは、狭い道ではあるが可能だと著者。

子育て支援のすすめ 施設・家庭・地域をむすぶ



北野幸子・立石宏昭/編著
ミネルヴァ書房
2006年10月 2520円
子育て支援のこれまで、これから、必要性や現場での課題など、さまざまな場や視点による、当事者のための子育て支援について、論じられている。

ハッピー・ワーキングマザー BOOK 4000人に聞きました



WMのためのウェブサイトを編
講談社 2006年10月 1260円
全国のワーキングマザー(WM)に、仲間がたくさんいることを知ってもらいたいと出版された。さまざまな職につくボランティアのWMによって運営されるウェブサイトで交わされた情報—子育て、キャリアアップ、両立しやすい業界は？などの、生きた情報は、これからWMを目指す人にも役立つ。

日本の教育 岡山的女子教育 2006年公開講座講演集

山陽学園大学・山陽学園短期大学社会サービスセンター/編
吉備人出版 2006年10月 1575円
山陽学園大学が毎年開講している公開講座の講演録が中心になっている。岡山の個性豊かな女子教育が描かれている。

「幼保一元化」と認定こども園

大阪保育研究所/編 かもがわ出版 2006年9月 1470円
子どもの生活実態と、保育のあり方を問題提起し、幼保総合施設、認定子ども園の課題を論じる。

母さんが議員になった

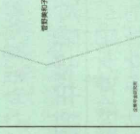
山口菊子/著 七つ森書館 2006年11月 1260円
フツウの主婦が豊島区議会議員になった。そのいきさつを報告。

平等と政治 年報政治学 2006-1



日本政治学会/編
水鐸社 2006年11月 2310円
平等と政治をめぐる諸問題についての論文が並ぶ。「家父長制とジェンダー平等」「(岩本美砂子)福祉国家と平等をめぐる政治」「(宮本太郎)など。

妻も年金 夫の年金 夫婦の年金について伝えたいこと



菅野美和子/著
企業年金研究所 2006年11月 1470円
夫婦として暮らしていた人を対象に、離婚時の年金分割ばかりでなく、年金の持つ意味、年金額を知る方法などを、たいへんわかりやすく解説している。

格差社会とたたかう <努力・チャンス・自立>論批判



後藤道夫 吉崎祥司 竹内章郎
中西新太郎 渡辺憲正/著
青木書店 2007年1月 2310円
「努力すればむくわれる」「機会の平等を保障すれば結果の平等もついてくる」「自立支援が大切」といった新自由主義政策の言説を批判。その克服に向けた福祉国家論の再建を呈示。

〔子育て・教育〕

子育てにやさしい住まい

藤田 洋/著 週刊住宅新聞社 2006年9月 1575円
著者はミキハウス子育て総研の社長。全国1800人の親へのアンケートの結果でつくった住まいの評価基準を紹介しながら、親子のコミュニケーションづくりという視点で住まいのありかたを探る。

エブリペアレント 読んで使える「前向き子育て」ガイド
子どもの生活力、社会性、自制心を伸ばす育児法

マッシュレー・R・サンダース/著 柳川俊彦、加藤則子/監訳
明石書店 2006年12月 2940円
子育てと家族に関する心理学を専門とし、臨床心理学教授兼ファミリーサポーターセンターの所長である著者が、子育てのノウハウを解説し、助言する。子どもの言動について、一つひとつついに、行動チャートや指導の方法が書かれている。

少子化時代 子どもを伸ばす子育て 苦しめる子育て
子どもたちの幸せな未来ブックス

ほんの木/編 ほんの木 2006年12月 1575円
子育てで抱えるストレス、テレビ・ビデオの影響、母子関係の密接さの問題点など、日常生活におけるさまざまな課題をわかりやすく解きながら、母親・父親へ温かいエールを送っている。

人権教育のためのコンパス〔羅針盤〕 学校教育・生涯
学習で使える総合マニュアル

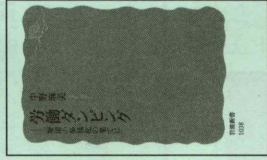
ヨーロッパ評議会/企画 福田弘/訳
明石書店 2006年12月 4200円
学校や生涯学習の場で人権教育を実施するため
の総合マニュアル。人権教育を理解するための
基礎知識から始まり、実践例、実践方法、基礎
情報など、順序だてて網羅されている。ヨーロッパ
評議会とは、「ヨーロッパ人権条約」等、ヨーロッパに共通した民主
的諸原則を発展させるためにつくられた国際的機関。



〔労働・仕事〕

労働ダンピング 雇用の多様化の果てに

中野麻美/著
岩波書店 2006年10月 819円
転換期であるといわれる労働や雇用の
問題について、グローバル化と向き合いな
がら、不合理な格差をもたしめてきた要因
が取り除けるのか？働きにに応じて公正に
報われる、安心して生活できるシステムを
展望できるのか？「人間らしく働いて生
きる」ことの政策的意味を考えさせる。



女性の人材開発 キャリア研究選書 シリーズ日本の人材形成2

川喜多喬/編 小池和男/監修
ナカニシヤ書店 2006年11月 3360円
働く女性のキャリア形成にとっても必要なこと
は何か。本書では、事務職、秘書、研究職、ナースな
ど、企業という組織の中での専門職としての女性
のキャリア形成を扱う。



女性の仕事全ガイド 2008年版

成美堂出版 2006年11月 1260円

ハッピーキャリアのつくりかた

金澤悦子/著 ダイワモンド社 2006年10月 1365円
仕事も人生もハッピーに生きたい人に、自分も試行錯誤しながら
キャリアをつくり上げてきた著者がアドバイス。

女性が起業して自分らしく生きる 幸せな仕事を見
つけた30人のわくわくメッセージ

三根早苗/著 コマブックス 2006年11月 1260円

子ども・学校・社会 教育と文化の社会学

稲垣恭子/編 世界思想社 2006年12月 2310円
現代社会における様々な教育現象を取り上げ、論じている。現代
家族と家族感情、受験の世界、教育システムの構造と機能、学校の
変遷の逸脱など。現代の教育と社会をとりまくこうした現象の変化
や意味をさぐることに、子ども、家族を考えようとしている。

子どもの居場所 ママの居場所 川崎市幸市民館「家
庭・地域教育学級」の取り組み

川崎市幸市民館「家庭・地域教育学級」編集委員会 赤ちゃん
とママ社 2006年12月 1680円
川崎市の市民館で開催された「子どもをとりまく環境を学ぶ」と
いう連続講座の講義録。講義録にありがちな「テーズおこし」した
だけの本ではない。講座の熱い雰囲気まで伝わってくる。受講者や
担当者とも編集会議に入って、練り上げたという。

子ども家庭福祉・保育のあたらしい世界
理念・仕組み・援助への理解

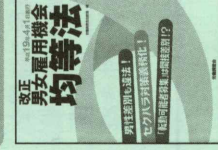
柏女霊峰 生活書院 2006年10月 2100円
変革期を迎えた「子ども・家庭福祉・保育」政策。
変わり目にあたっての論点、課題は何か、をまとめ
ている。保育制度改革、障害者自立支援法、DV防
止法、里親制度、などなど、本当に「改革」が目白押し
なのがわかる。問題はその方向。

幼稚園・保健所・認定こども園から広げる子育て支援
ネットワーク

蒲原基道・小田豊・神長美津子・篠原孝子/編著
東洋館出版社 2006年12月 2625円
幼稚園、保育所などにおいて今後求められる子
育て支援とは？本書が主張するのは、市町村単位で
の支援ネットワークづくり。「コンビニの数ほど」の
支援が必要だと。



改正 男女雇用機会均等法



労働調査会出版局/編 労働調査会
2006年11月 1000円

2006年に2度目の改正が行われた雇用機
会均等法を解説。改正のポイントは、「女性
差別禁止から男女双方差別の禁止へ」、「間
接差別の禁止」、「セクハラ対策の規定化」な
ど。

格差拡大に挑む 女性労働研究 No51



女性労働研究会/編 青木書店
2007年1月 1575円
特集1：格差拡大とのたたかい 特集2：動
く女性とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ。
熊沢誠、橋本健二、中野麻美など。
毎号、しっかりした論者が並ぶ。

起業して自分なりの仕事を切り開いている30人の若い女性の
インタビューをまとめたもの。「あなたもきょうまういく！」と
いうメッセージ。

サラリーウーマン幸せ研究所 LIFE編

小林由紀子+日経WOMAN/編
日本経済新聞社 2006年10月 1470円
雑誌「日経WOMAN」の人気連載「サラリー
ウーマン幸せ研究所」をまとめたもの。WORK編
の続編として、サラリーウーマンの生き方全般に
ついて、相談者が1人1人、ゲスト講師と対話してい
く。



中高年女性のライフサイクルとパートタイム スーパーで働く女たち

乙部由子/著 ミネルヴァ書房 2006年11月 3360円
日本女性のライフサイクルの中で、現実として正社員よりも長期の雇用形態であるパートタイマーの労働を分析。典型的なパートタイマーの事例であるスーパーでの聞き取り調査に基づいた実証的研究。

職場のいじめ 「パワハラ」と法

水谷英夫/著 信山社 2006年12月 2940円
職場のいじめとはなにか、その現状や対策、個人と使用者における法的責任や対処法など、法律、報告書、判例、EU諸国の実情などから詳細に解説。

Q&A改正均等法 早わかり 新指針・通達に対応

日本経団連労政第二本部/編著
日本経団連出版 2006年12月 1890円
2006年大幅に改正された男女雇用機会均等法の内容をQ&A形式で解説。

女も男も自立・平等-No108 ワークライフバランス
「働き方暮らし方」の二極化を問う

労働教育センター編集部/編
労働教育センター 2006年12月 1860円
Part 1: 私たちの望むワーク・ライフ・バランスとは Part 2: 男性・正社員の働き方を見直す Part 3: ワーク・ライフ・バランスと均等待遇 Part 4: 子育てで支援制度は誰のもの? Part 5: 若者の働き方への意識は変わったか?

【家庭・家族・衣食住】

魂萌え! の女たち 祝祭の季節を生きる

本岡典子/著 岩波書店 2006年11月 1575円
団塊世代の主婦たち。夫が定年を迎え、閉経、子どもも独立、老親の介護や死などの「喪失」も訪れ、生きる意味を考えざるをえなくなる。本書に出くる5人の団塊世代の女たちは、人生最後の時間を幸せに生き抜くことをめざして、外の世界に羽ばたきはじめる。桐野夏生「魂萌え!」からヒントを得、中年後期を生きぬく女性5人を描くノンフィクション。



地球の食卓 世界24か国の家族のごはん

ピーター・メンツェル フェイス・ダルージオ/著
みつじまちこ/訳 TOTO出版 2006年5月 2940円
日本の2家族(東京・沖縄)を含む世界24か国の家族が、1週間にをどれだけ食べたか。その食材のすべてを見せる。食材の種類とその量の違いや、レシピ、またそれぞれの暮らしぶりなどのルポも。食をおとし異文化というものをじっくりと考えられる。子どもから大人まで、見て、読んで、楽しんで、考える本。

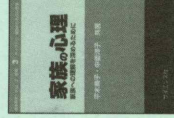


昭和の住まい

岡田憲治/著 鶴書院/発行 星雲社/発売 2006年9月 1575円
マンガ「サザエさん」や映画、新聞、広告、テレビなどから、「昭和の住まい」をピックアップ。家の間取りから住まい論、カーテン論、カギの歩みに至るまで、昭和の世相を「住む」ことをキーワードに、鮮やかに切り取っている。なつかしい年代の人もいるはず。

家族の心理 家族への理解を深めるために

平木典子 中金洋子/著
サイエンス社 2006年10月 1680円
今までの家族にかかわる心理学の研究と実践を初学者向けに並べたもの。家族心理学がひととおり学べるようになっていく。



部下を好きになっってください IBMの女性活用戦略

内永ゆか子/著 勁草書房 2007年1月 1890円
日本IBM取締役専務執行役員の著者が、35年のIBM生活のことを書く。失敗にめげずに努力しチャレンジしていく姿は、さすが。

戦後労働組合と女性の平和運動 「平和国家」創生を目指して

山本真理/著 青木書店
2006年12月 3780円
戦後平和運動の担い手であった労働組合と主婦の平和運動を分析して、日本人にとって「平和」とはどんな意味を持っているのかを論じている。日本人は他国の人と比べて特別に平和愛好家であるような印象があるが、果たして本当にそうなのか。刺激的な研究書である。

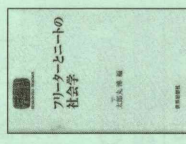


社長、女のセンスを生かせなくて会社が伸びますか

日野佳恵子/著 三笠書房 2006年12月 1365円

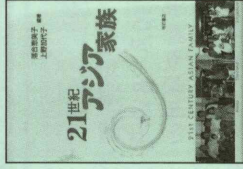
フリーターとニートの社会学

太郎丸博/編
世界思想社 2006年12月 1995円
誰がフリーターになりやすいのか、性別役割分業は若者の就業にどう影響するのか、若者の労働観は未成熟か、どのような政策と研究が必要なのか...など、まさに今、私たちが知りたいことを、20〜40歳の若い研究者たちが論じている。



21世紀アジア家族

落合恵美子・上野加代子/編著 明石書店 2006年12月 2100円
日本、韓国、中国、タイなどのアジア各地の普通の家族と人々の暮らしを比較研究するために各国の研究者が集まり行なった共同研究の成果がまとめられている。研究書としての報告は別に出るそう、本書が扱うのは、論文では落ちてしまっ個々の具体的な出来事や感想部分。“観光”や“研究”ではわかりにくい生の暮らしが描かれている。ニホンの家族の閉鎖性がこれほど際立っているとは驚き。



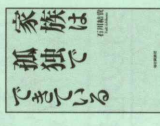
ウィグル女性の家族と生活 中国・シルクロード

岩崎雅美/編著 東方出版 2006年11月 2520円
ウイグル自治区に暮らす女性たちの生活をカラー写真と文章で報告。1999年から7年間、毎年行われてきた生活調査の果実である。なじみのうすい中近東のイスラム社会に住む女性たちの姿は、新鮮。



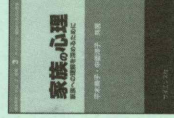
家族は孤独でできている

石川結貴/著 毎日新聞社 2006年11月 1500円
夫婦の問題をルポし続ける著者が「サンデー毎日」に2005年に連載したものを再構成、加筆した。DVIに耐えるよりも貧乏になるほうがイヤと離婚しない妻、育児家事をこなすよき夫と父であることに疲れた夫は、多くの問題を抱えた妻や夫、子どもたちの現状が綴られており、「家族」であり続ける必要は?と考えさせられる。



赤ちゃんの値段

高倉正樹/著 講談社 2006年6月 1785円
女子中高生の妊娠、出産、レイプ、婚外子などが増加し、その結果、生まれた子どもを海外養子斡旋する業者も「市場経済」論理の仕組みで動いているという。養子輸入大国であるアメリカ、輸出国といわれる中国、韓国の実態も伝える。「養子縁組斡旋法」試案の紹介、国内養子縁組の提案、中学生への避妊教育の必要性を呈示。



不埒な希望 ホームレス/寄せ場をめぐる社会学

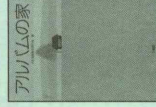
狩谷あゆみ/編 松籟社 2006年11月 2310円
日本解放社会学会設立20周年記念として発行。野宿者の暮らし、その中に占める移民や女性を抱える問題について、7人の筆者が論じる。

子連れ離婚を考えたときに読む本

新川てるる/著 日本実業出版社 2006年12月 1470円
離婚の手続きや、慰謝料や、養育費、親権、子どもの姓の変更手続き、児童扶養手当などの支援の情報についての先輩シングルマザーの体験談やアドバイスを満載。2度の離婚を経験し、子どものことをもって考えてやればよかったと、NPO活動をしている著者ならではの視点で書かれている。

アルバムの家

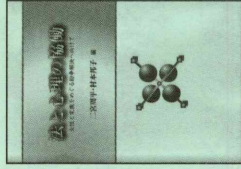
女性建築技術者の会/編
三省堂 2006年11月 1890円
40～60歳の女性建築家たちが、10歳だった自分たちが育った家と暮らして綴っている。北海道から九州まで33の家の物語が間取り図と写真つきで、次々に展開される。本当にアルバムのような。



【こころ・癒し】

法と心理の協働 女性と家族をめぐる紛争解決へ向けて

二宮周平・村本邦子/著 不磨書房 2006年11月 2730円
女性と家族をめぐる紛争を解決するためには、法と心理が別々に作用するのではなく、協働(コラボレート)していくことが必要である。本書では、法曹・臨床心理などの専門家、家庭裁判所・福祉機関、さまざまなNPOが連携し、ネットワークしていく方が検討されている。法的解決と心理的安定は解決に向かう両輪であること、そして、その両方にとってジェンダー視点が必須であることが強調されている。



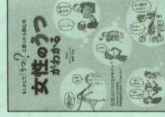
私の居場所はどこ？ 小学生編 保健室で受けとめた子どものサイン

全国養護教諭サークル協議会/企画 五十嵐由紀/著
農山漁村文化協会 2006年7月 1250円
友だち、親、教師との関係で傷つき、苦しむところ、受難のストレスや摂食障害などについて、回復、解決への道を事例から紹介する。著者は小学生の問題をどう捉え、どう取り組んでいくかを自分の実践を持って示してくれる。

私の居場所はどこ？ 中学生編 保健室で受けとめた子どものサイン

全国養護教諭サークル協議会/企画 山咲さくら・澤地妙/著
農山漁村文化協会 2006年8月 1350円
リストカット、ブチ家出、不登校、うつ、PTSD...ますます複雑になる中学生の心理と行動について、日々接し、その回復を支えてきた二人の養護教諭による実践事例。

女性のおつがわかる もしかして「うつ」？と
思ったら読む本
姫野友美/監修 大京書店 2006年11月 1050円
「うつ」は誰でもなる病気。メカニズムを知って、予防＆克服を。



アディクションと家族 vol.23 No.3

家族機能研究所/編
ヘルスワーク協会 2006年11月 1680円
特集はクレプトマニア、盗癖のこと。「当事者との対談(斉藤学)」「摂食障害者のクレプトマニア(遠藤優子)」など。

児童の福祉を支える家族援助論

吉田眞理/著 萌文書林 2006年11月 2100円
保育者養成用テキストとして書かれた。家族をとりまく社会状況はどうか、子育て支援の実際は？などがわかりやすく解説されている。

ベビー・ビジネス 生命を売買する新市場の実態

デボラ・L・スパー/著 椎野淳/訳
ランダムハウス講談社 2006年11月 2205円
代理母、卵子提供、養子縁組など「子ども」という商品をめぐって、ニュー・ビジネスがおこっている。これは明らかに「商取引」である。この「市場」を健全化するために、政府は積極的に市場介入すべきと、著者。



家族というストレス 家族心理士のすすめ

岡堂哲雄/著 新曜社 2006年11月 1995円
家族関係の葛藤や対立を解きほぐすための専門家が家族心理士。ほこちんていく家族の再生を援助する家族心理士とは何か。

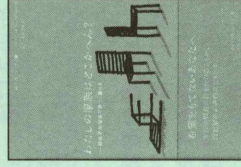


主夫でもいいじゃない！

紺昌幸/著 新風舎 2006年12月 1575円

わたしの家族はどこかへん？ 機能不全家族で育つ、暮らす

レイモンド・M・ジャミオロスキー/著 水澤都加佐/訳
大月書店 2006年12月 1470円
「10代のセルフケア」第五巻。生存、安全と安心、愛情と帰属感、自尊心・といった、家族のそれぞれが必要としていることがかけている家族のことを「機能不全家族」という。希望がもてなくなったら、家族の問題に目を向けると解決の糸口が見つかるかも



暴れる系の女たち

衿野未矢/著 講談社 2006年11月 1470円
恋人や夫、または街で会った知らぬ相手に対して、暴力をふるう女性たちが確実に増えているという。『依存症』(1998年)の著者が、女性たちの暴力の背景をさぐる。頼りたいのにそれができないいだらち、或いは仕事の場での生存競争、子どもへの虐待や義父母への暴力など、そこまで追い込まれるその背景や心理を描いている。

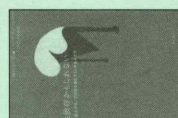
あなたの心を守りたい 女性医師が現場でつかった心の危機管理術
館有紀/著 幸福の科学出版 2006年10月 1260円
女性医師が、現場での経験をもとに、心の危機に対処する方法を伝授。特に医療現場で働く人に向けて。

事件巡礼 彼らの地獄 我らの砂漠

浅倉喬司 中村うさぎ/著
メディアミックス 2006年12月 1680円
犯罪評論家とエッセイストが、秋田の二児連続殺人事件をはじめ、親、姉などを殺すに至った事件の加害心理や背景などを取材し、それぞれの考察や新解釈を述べている。

共依存かもしれない…他人やモノで自分を満たそうとする人たち 10代のセルフケア③

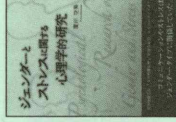
ケイ・マリリー・ポーター・フィールド/著
水澤都加佐/監訳
大月書店 2006年4月 1470円
なぜ必要以上に人につくしたり、何かにのめりこんだりするの？それに気づいていて悩む人、気づいていない人、その周囲にいて心配している人、ケアしている立場の人に。自分の思いを整理して、考え、



行動するようになるとなるか。

離婚と子ども 心理臨床家の視点から

柳瀬一代/著 創元社 2007年1月 2625円
離婚が子どもに与える影響を考察。離婚後の親子関係が抱える葛藤をどう乗り越えたらよいかを探る。著者は心理臨床家。事例が豊富



ジェンダーとストレスに関する心理学的研究

廣川空美/著 ふくろう出版
2006年12月 4800円

ストレスといった心理的なものになぜ生物学的性差がみられるのか。本研究書はストレスに対する生物学的性とジェンダーの影響を検証している。ストレスにはジェンダー・タイプが関係しているという。

私は私をあきらめない 家族トラウマを超えて

外川智子 船田真帆/著 メディアート出版 2006年12月 1575円
いわゆる“機能不全家族”に生まれ育ったAC（アダルトチルドレン）たち。ごくフツウの「何の問題もない」と見られる家族に多いという。著者は、ACのための相談所を主宰するセラピスト。現場の経験をまとめている。

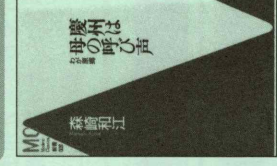
〔文学・エッセイ・芸術〕

テヘランでロリータを読む



アーザル・ナフィーシー/著 白水社 2006年9月 2310円
イスラム革命の嵐がふきあれた時代、抑圧的な大学当局に嫌気がさして教授職を辞任した著者は、自ら選んだ優秀な女子学生7人とともに、密かに禁じられた西洋文学（ロリータやギャツビーなど）を読む読書会を開く。過酷な状況の中を生き抜いたための「読書」上、本来「文学を読む」とはこういうものだったのだと思う。アメリカで大ベストセラーになった本。

慶州は母の呼び声 わが原郷



森崎和江/著 洋泉社 2006年12月 1680円
森崎和江の同名の書が、20年を経て、新書本になった。植民地、朝鮮で成長した森崎の自伝的作品。
その後の著者の生き様や著作の根っこにふれることになり、寂然となる。

こんな絵本に出会いたい 自分らしく生きるには

木村民子/著 フェミックス発行
亜紀書房/発売 2006年11月 1575円
絵本や児童文学に登場する主役たちが、「男らしさ」「女らしさ」にとられないで、自分らしく生きている。それらの物語や登場人物をジェンダーの視点でわかりやすく読み解いてくれる。「やんちゃな女の子」「女の子もこんな職業につきたい」「家事をする男の子」「差別・暴力のない世界」などのテーマで63冊を紹介。著者は出版社勤務、フリーライターを経て、現在東京都文京区議員。

女性の品格 装いから生き方まで

坂東眞理子/著 PHP研究所 2006年10月 756円
内閣府男女共同参画室長を務めた著者が、話し方、マナー、ビジネス、ファッション、人間関係のあり方まで、「品格」のある女性としての生き方を指南する。

ジェンダーとエスニシティで読むアメリカ女性作家 周縁から境界へ

小林富久子/著 学芸書林 2006年10月 2940円
アメリカでも、近年フェミニズム批評に対するバックラッシュがおこっているそう。大御所の批評家もくみしているという。そんな状況の中、著者は、19世紀以降の米国女性作家をとりあげ、あえてフェミニズム批評を展開したのが本書。アメリカ文学愛好者には、たまらない1冊だろう。

夕刊を読む女。

石丸美奈子/著 西日本新聞社 2006年10月 1000円
西日本新聞に連載された夕刊社会面コラムをまとめたもの。キーワードは「女」。凝縮された文章が心地よい。

永遠の友だち

サリー・ワーナー/著 山田蘭/訳
角川書店 2006年8月 1470円

カリフォルニアの美しい町に住むケイティとナナ。幸せ真っ盛りのはずなのに、ナナがガンに侵されて、別れなくてはならない。ケイティは、明るく、何事もなかったかのように毎日をナナと過ごし、そして、ナナは衰弱していく。全米でベストセラーになったという、永遠の友だちの物語。

腐女子化する世界

杉浦由美子/著 中央公論新社 2006年10月 756円
腐女子とは、「男性同士の恋愛物語を好む女性」のこと。自分自身よりも「自分以外」のものを追いかけるオタク化した女性のことだという。最近進行中という「腐女子」化はなぜ？ その理由をさぐったのが本書。

現代女性文学を読む

与那嶺恵子/著 双文社出版 2006年10月 1890円
江國香織、小川洋子、干刈あがたなど、刺激的な作品を発表している現代女性作家7人の短編を掲載。言葉の解説とコラムで読み解いている。現代日本文学界は、確かに女性の活躍が大。

女子と鉄道

酒井順子/著 光文社 2006年11月 1365円
表紙に「茶道、華道、鉄道！」とあるのに象徴されるような、「クッスッ」と笑える「女性向け鉄道入門」。「負け犬の遠吠え」と同じ、小気味よいタツチのエッセイ。

一葉樋口夏子の肖像

杉山成子/著 績文堂 2006年10月 1890円
東京、本郷がいよいよに居し、24年の生涯をかけぬけた樋口一葉の姿を、その交友関係を中心につつんでいる。著者の一葉への思い入れが、静かに伝わってくる。

ファッションの歴史 西洋中世から19世紀まで

ブランシュ・ペイノ/著 古賀敬子/訳
八坂書房 2006年10月 3990円
中世から19世紀までの西洋の服飾史を残されたコスチューム写真、絵画、彫刻、イラスト、型紙図面などから読み解いている。挿入された写真や図も楽しめる。

ダロウェイ夫人 シリーズもっと知りたい名作の世界⑥

窪田憲子/編著 ミネルヴァ書房 2006年11月 2730円
ヴァージニア Woolf の『ダロウェイ夫人』を読み解き、複層的な角度から魅力に迫ろうとしている。マイケル・カニンガム『めぐりあう時間たち』との比較も。



自由民権家中島信行と岸田俊子 自由への闘い

横澤清子/著 明石書店 2006年11月 9975円
土佐藩郷土から明治政府新進官吏となり、後に第一回帝国議会議長になった中島信行と、女性解放運動・自由民権運動の論客であり、後に中島の伴侶になった岸田俊子の軌跡を描いている。

地に舟をこげ 在日女性文学 創刊号

編集委員/呉文子 山口文子 李光江 李美子 朴和美 朴民宣 高英梨
在日女性文芸協会/発行 社会評論社/発売 2006年11月 1260円
創刊号の特集は「在日女性の表現をめぐって」。「社会的、政治的な大状況の中で、女である故の生き難さを『文学的想像力』の場できちんと拮抗してみせる」とは、編集委員、高英梨の言。

レオノール・フィニ 境界を侵犯する新しい種

尾形希和子/著 東信堂 2006年8月 2940円
独特のエロティシズムに満ちた超現実的な、シュレアリストとして知られるレオノール・フィニ(1907年～1996年)の生涯と作品を紹介、解説。あらゆる制度や境界を侵犯し続けたユニークな生涯と作品が呈示されている。

絵筆の姉妹たち 19世紀末パリ、女性たちの芸術環境

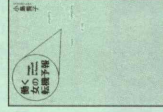
タマル・ガーブ/著 味岡京子/訳 ブリュッケ/発行
星雲社/発売 2006年10月 3990円
19世紀末において、政治と芸術はどのように関係し合い、互いに影響しあったか、を論じている。
1881年に創設された「女性画家彫刻家同盟」をとり上げ、その同盟が国立美術学校への女性の入学許可を勝ち取るまでの経緯を分析しているのが、興味深い。

女子映画スタイル ときめきのガールズ・ムービー

山崎まどか/著 講談社 2006年9月 1470円
「女子映画」とは、女の子が歌ったり、踊ったり、洋服を着がえて楽しんだり、走ったりすることので成り立つ映画のこと。本書はそういう「女子映画」を紹介したもの。スターではなく、観客に近い女の子たちが出てくる映画のあれこれを解説している。

働く女の転機予報

小島貴子/著 幻冬社 2006年9月 1470円
出産を機に専業主婦になって7年。職業訓練指導官として再就職して、その後、キャリアを積み上げてきて著者による「チャンスのつかみ方」の本



(からだ)

女の子のからだの悩み 専門家にこれだけは聞いておきたい質問100



久米代子 村山より子 小川久貴子/著
新風舎 2006年11月 1260円
思春期の女の子に向けて、月経、セックス、妊娠等の大切なことを説明。一生を通して知識が必要。

おしえて先生！ ありがとう先生！ 不妊治療Q&A

浅田義正/著 シオノン/発行 丸善/発売 2006年10月 1344円
からだ、初診、転院、検査、排卵誘発、人工授精、男性不妊などについてQ&A方式で丁寧に。

もしかして妊娠…そこからの選択肢

キャロリン・シンブゾン/著 村瀬幸浩/監修 富永星/訳
大月書店 2006年10月 1575円

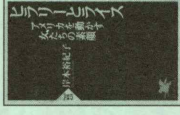
伊都子の食卓

岡部伊都子/著 藤原書店
2006年11月 2520円
岡部伊都子の最新エッセイ集。食べもののふれあいをテーマにしている。「おいしいものを食べて、美しくお化粧をしてね。それからよ、死ぬのは」



ヒラリーとライス アメリカを動かす女たちの素顔

岸本裕紀子/著 PHP研究所 2006年11月 756円
次代のアメリカを担うであろう二人の女性、ライス国務長官とヒラリー上院議員。この傑出した二人、キャリアの特徴も人との関係の作り方も、生い立ちも、女性からの見られ方も全く異なるタイプだという。二人のエリート女性の生き方を通して、アメリカ社会の側面も見えてくる。著者のバックボーンも透けて見えてくる。「女性だから書ける」本かもしれない。



私のように黒い夜

J・H・グリフィン/著 平井イサク/訳
ブルース・インタン・アークシヨンス 2006年8月 2310円
1959年アメリカ。黒人差別が認められていた時代。白人である著者は、自らの肌を焼き、黒人として南部へ潜入。その体験を記した日記は、当時、世界に衝撃を与えた。40年経って完訳、復刻されたのが本書。

マドンナの首飾り 橋本みさお、ALSという生き方

山崎摩耶/著 中央法規 2006年11月 1890円
ALS (筋収縮性側索硬化症)患者の橋本みさお(日本ALS協会会長)に、訪問看護の制度づくりの先駆者である著者がロングインタビュー。常時2人以上の介護人を日従え、国会の陳情に、海外にと飛び回る橋本の半生が描られている。

打ちのめされるようなすごい本

米原万里/著 文藝春秋 2006年10月 2400円
ロシア語同時通訳第一人者、エッセイストで2006年5月にガンで逝った米原万里の絶筆となった読書日記(「週刊文春」に死の直前まで連載されていた)と95年から05年までに執筆した全書評を掲載。稀有な才能と深い思索、強靱な精神力。どれをとっても「すごい人」だった。

家族のかたち 英語圏女性作家の描く

佐藤宏子 川本静子/訳
ミネルヴァ書房 2006年12月 2940円
英語圏で活動する15人の女性作家の作品の中から、「家族」をキーワードに抽出した短編を訳出。

もうがまんしない！ 女性特有の病気 上手なつきあい方と最新治療法



森田豊/著 ゴマブックス(株)
2006年12月 1260円
子宮筋腫、卵巣脳腫、感染症などの婦人科系の病気や症状について、基本的なところを解説。

「予想外の妊娠」をした時、どうしたらいい？ この本では、まず、様々な選択肢をいねいに紹介。そして、どうするか決めるのは妊娠した女性であり、その命をつくったパートナーであることを前提に、「一人きりで悩まないで」というメッセージを送っている。

Q&Aでわかる子宮筋腫安心読本

武内裕之/著 主婦と生活社
2006年11月 1365円



40代初産をはじめた女性たち

新井容子/著 情報センター出版局 2006年11月 1575円
1960年から65年生まれで、40歳代になってから出産した7人の女性。「男性と対等に働くため」、「自分らしく生きる結果」などの高年齢初産となった背景、妊娠への思い、妊娠後の検査の可否、パートナーとの関係・・・それぞれの女性が語った「産む」ことに至る道のりをルポしている。

知っておきたい乳癌

関口礼子/著 リベルタ出版 2007年1月 1680円
現在、女性の23人に一人が乳癌を患うというが、8人に1人の欧米レベルに近づくのも遠い話ではないそうだ。著者は「社会変動」を研究する専門家であるが、専門を離れ、乳癌治療を受ける側の立場から見えたことをまとめている。

〔自伝・評伝〕

宇野千代 女の一生

宇野千代・小林庸浩ほか/著 新潮社 2006年11月 1470円
98年の人生を文章と写真で綴る。ファッション、自慢料理のレシピ、居宅などの衣食住のすべて、恋愛や旅、コレクション、原稿の筆跡など、「泥棒と人殺しのほかは何でもした」とかつて語った作家が、その人生をたどる。知ってはいしたが、これほどまでに・・・と感嘆した。



黒衣の女 ベルト・モリゾ

ドミニク・ボナ/著 持田明子/訳 藤原書店 2006年9月 3465円
ドガやモネ等とともに活躍した19世紀後半の印象派女性画家、ベルト・モリゾの評伝。女性であることの制約が今よりずっと大きかった当時の画壇の中で、職業画家の道をまっとうした黒衣の似合う女性(夫、マネの絵に黒づくめ衣装でモデルともなっている)の物語。



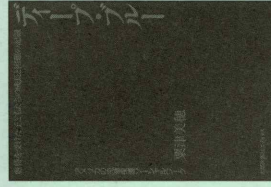
わたしの夢は、大空の色。 車椅子の女性パイロット

ドリーヌ・ブールドン/著 中田文/訳 扶桑社 2006年9月 1470円
空を飛びたいという夢を実現させようとしていたフランスの16歳の少女。訓練機墜落で下半身不随となるが、車椅子でパイロットとなる。単なる苦労話ではなく、自分の身体やセクシュアリティ、家族との関係などにおける苦難や悩みを、本人が率直に、強い意志を持って書いている。

〔セクハラ・暴力〕

ディープ・ブルー

栗津美穂/著 太郎次郎社エディダス 2006年12月 2205円
カリフォルニア州児童保護局ソーシャルワーカーの著者が関わった5人の被虐待児の保護と救済のドキュメント。アメリカ格差社会は、膨大な暴力と依存に満ちた家庭を生み、子どもたちが虐待にさらされている。「よその国の話」と笑ってはいられない。と同時に、本書に見るアメリカソーシャルワーク20年の到達は、日本から見れば、ずっと“進んでいる”。

DV・虐待にさらされた子どものトラウマを癒す
お母さんと支援者のためのガイド

ランディ・バンクロフト/著 白川美也子 山崎知克/監訳 阿部尚美 白倉三紀子/訳 明石書店 2006年12月 2940円
パートナーからDV・虐待を受ける母親を見て育った子どもへの悪影響を心配している人たちのためのガイド。暴力の連鎖を絶つために、子ども達をどう支援したらいいのだろうか。「虐待する男性の言動があなたを引きさくかのように思えても、愛の絆は切れないで」と、著者は語りかける。

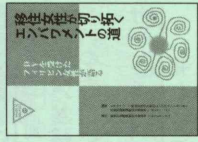


生贄の女 ムフターール 屈辱の日々を乗り越えて

ムフターール・マリー/著 橘明美/訳 ソフトバンククリエイティブ 2006年9月 1470円
「名誉犯罪」の名のもとに集団レイプの被害者となったムフターール。しかし、女性への暴力が罰せられないパキスタンで提訴し、最高裁まで争う。賠償金で村に学校を建て、女性の人権確立に力をつくし、「パキスタンの顔」と呼ばれるようになる。2006年にはTIME誌の「世界の100人」にも選ばれた。

移住女性が切り拓くエンパワメントの道 DVを受け
たフィリピン女性が語る

カラカサン 反差別国際運動日本委員会/編集 解放出版社/発売 2006年12月 1260円
編集者のカラカサンとは「移住女性のためのエンパワメントセクター」。日本に移住してきてDVの被害を経験したフィリピン女性5人と支援者がカラカサンに集い、参加型アクションリサーチに取り組んだ。本書はその活動をもとに生み出された記録。日本語と英語の両方で書かれている。

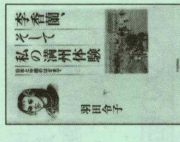


心の家を求めて "デブ・ブス・バカ"と呼ばれる少女時代の追憶

デブラ・コンスタンス/著 松田貴美子/著 オープンナレッジ 2006年11月 1575円
父親からの虐待、薬物中毒、アルコール依存症、癌、離婚など、1つでも大変な"試練"をすべて一人で背負い込んだ著書。しかし、それを乗り越えて、現在は恵まれない子どもたちに安全な家庭環境を提供する施設を設立し運営している。

李香蘭、そして私の満州体験 日本と中国のはざまで

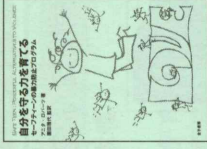
羽田令子/著 社会評論社 2006年11月 2100円
日中戦争のさなかに満州映画界のスター女優だった李香蘭の面影を、現在タイに在住する著者がたどる。「バンコク週報」に一年半にわたって連載されていたもの。



自分を守る力を育てる セーフティーンの暴力防止プログラム

アニタ・ロバーツ/著 園田雅代/監訳

金子書房 2006年10月 3675円
10代の子ども向けにカナダで開発された暴力防止プログラム。「ドラッグはダメ」「セックスを控えて」とアドバイスするだけでは残念な声は充分。若者たちが、自ら「自分自身の知恵の声を聞き取りとつかみ取るため」のトレーニングが必要だと、本書は主張、その方法を呈示している。



現代の奴隷制(アジア現代女性史1) タイの売春宿への人身売買されるビルマの女性たち

藤目ゆき/監修 アジア・ウオッチ、女性の権利プロジェクト、ヒューマン・ライツ・ウォッチ/編著 古沢加奈/訳

明石書店 2006年11月 3150円

アジア現代女性史研究会が翻訳、編集を行う「アジア現代女性史シリーズ刊行第1作」である。ビルマからタイへの人身売買の実態を調査、研究し、さらにそれぞれの政府への勧告を行っている。

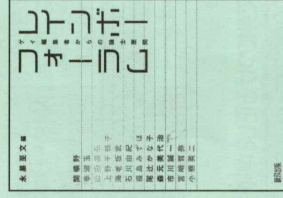


〔セクシュアリティ〕

レインボーフォーラム ゲイ編集者からの論士歴聞

永易至文/編 緑風出版 2006年10月 1890円

2002年～2004年まで発行されていた同性愛者のライフスタイルマガジン「にじ」に連載されていた、同性愛者の運動への問題提起のページを採録。辛淑玉、上野千鶴子、福島みずほが合わせて12人の論者がさまざまな視点で同性愛者への、温かい、また厳しいメッセージを送る。巻末には「にじ」全8号の目次が収録されている。



映画と身体/性 日本映画史叢書⑥

斉藤綾子/編 森話社 2006年10月 3360円

映画で描かれる身体/性とは何か、がテーマ。映画的身体」とは、文化的、社会的に構築された「感応と欲望」である。「からだで書いたシナリオ」(堀田かり)、「百合」と「レス」のはざまで(溝口彰子)など。



庶民たちのセックス 18世紀イギリスにみる性風俗

ジュリー・ピークマン/著 塩野美奈/訳

KKベストセラーズ 2006年10月 2835円

1680年から1830年に至るイギリス庶民たちのセクシュアリティの研究。結婚、離婚、売春という「ノーマル」な性行為だけでなく、異性愛、猥褻といった「アブノーマル」な性と、それに対する人々の反応にまでふみこんでいる。18世紀イギリスは、活力あふれる混乱の時代。「逸脱を謳歌する」時代だった。



命を大切にする性教育は誰でもできる 知的授業力アップ提言集 5

新牧賢三郎/著 明治図書 2006年10月 1848円

性教育とは「命の大切さを教えること」。まずは、自分のからだの仕組みを知り、命の歴史を科学的に追究しようと著者は提唱する。

黄金町マリア 横浜黄金町路上の娼婦たち

八木澤高明/著 ミリオン出版 2006年11月 1680円

横浜に黄金町という売買春の街がある。そこにいる多くは、タイやフィリピンなど東南アジア系の女性たち。エイズもはびこっ

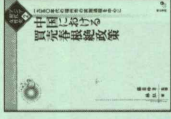
中国における買売春根絶政策(アジア現代女性史2)

1950年代の福州市の実施過程を中心に

林紅/著 藤目ゆき/監修

明石書店 2007年1月 4410円

フェミニズム理論とフェミニストの買売春論から得た、多元的かつ多様な思想に示唆を得て研究したという。中国における買売春根絶政策の理念、具体的な過程や実態などを原史料の緻密な解説と聞き取り調査によって研究、考察、説明している。



暴力は親に向かう いまあかされる家庭内暴力の実態

二神能基/著 東洋経済 2007年1月 1680円

ニートやひきこもりなどの若者の再出発を支援するNPO法人ニュースタートの代表が、その活動の経験から、家庭内暴力の実態を明かし、対処法を説く。

犯罪被害者支援の理論と実践

犯罪被害者支援法律実務研究会/編
民事法研究会 2006年11月 2625円

犯罪被害者支援のためには、トラウマ・PTSD・ドメスティックバイオレンス等についての精神医学、臨床心理学の専門知識をふまえる必要がある。訴状、申立書などの書式を含め、実践的でかつ被害者によりそう支援方法を解説

フィンランドのジェンダー・セクシュアリティと教育

橋本紀子/著 明石書店 2006年12月 2100円



ITの発達、学力の高さ、男女平等等で注目されるフィンランド。子どもたちのジェンダー・セクシュアリティの形成に関しても、学校、地域の両面から充分な工夫がされている。日本の現状とは全く逆の方向に進むフィンランドの状況から学ぶことは大いにあるようだ。本書には、フィンランドにおけるジェンダー・セクシュアリティ教育の詳細がわかり易く紹介されている。

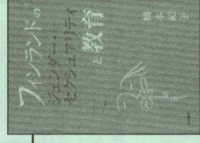
ている。この本は、黄金町に分け入り、エイズ病棟や女性たちの故郷にまで訪れて撮影された写真と文章で構成されている。お金を払って撮影した「娼婦たち」の日常の写真である。

『性教育の輪』連携法! 「街角保健室」から学ぶ[理論と実践講座]

関口久志/著 十月舎/発行

星雲社/発売 2007年1月 1575円

まず、国内・海外の10例の性教育の実践を紹介。最終章で、10例の取材から見えてきた日本の性教育の課題をのべている。次世代を担う子どもたちに「性の健康権」を保障しようと提案。地域・学校・家庭の新たな共同が必要だと説く。



季刊セクシュアリティ No.29

『人間と性』教育研究協議会/企画編集

エイデル研究所 2007年1月 1500円

今号の特集は「ここで変わった!『私の実践』14例」。小中高、障害児学級などでの実践例を紹介



聖書は性についてどう教えるか 『雅歌』に学ぶ

佐藤全弘/著 教文館 2006年11月 1995円

聖書ほど性の乱れを厳しくいしましめる聖典はないのに、なぜキリスト教国と呼ばれる国で「性の乱れ」が顕著なのか。本当は、聖書の中に雅歌があって、性本然の姿をありのままに歌い上げているのではないか、というのが、著者の主張。



〔女性史・歴史〕

はじめての女性代議士たち 新しき明日の来るを信ず



岩尾光代/著 新風舎
2006年10月 890円

1946年戦後初の総選挙で誕生した39名の女性代議士たちの生き方を描く。よくやうく手にした立候補の権利を行使し、国会に出て行った26才から65才までの39人のストーリー。当時の写真も興味深い。(文庫本)

民俗誌・女の一生 母性の力



野本寛一/著 文藝春秋 2006年10月 777円

民俗の世界を見ると、古来から、日本は女性尊重・母性保護の国であったと著者は言う。戦前期、厳しい時代、女性は様々な労苦に耐えていたが、誇りを持ち、母性豊かに生きており、その点、現代にも継承すべきものも多いのではと、民俗社会のシステム研究を引用しつつ著者は主張する。

新しいアフリカ史像を求めて 女性・ジェンダー・フェミニズム



富永智律子・永原陽子/著
御茶ノ水書房 2006年12月 4935円

日本で"手薄い"アフリカ史研究の中でも、特に手薄なのが、「アフリカ女性史」。その課題をなんとかしようと立ち上げられた「アフリカ女性史に関する基礎的研究」の成果が一冊になった。

巫女の民俗学 <女の力>の現在

川村邦光/著 青弓社 2006年10月 2100円
「口寄せ」を通して死者をつなぐ盲目の巫女のもとに推参し、巫女の習俗を歴史的に探った書。「宗教者」としての生き方は強朝、「文化財」としては収まりきれない「野の力」を持っているという。

絵で見る 江戸の女たち

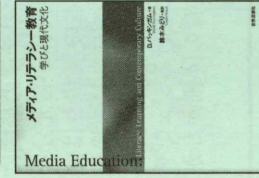
原田伴彦 遠藤武 百瀬明治/著
柏書房 2006年11月 2310円

江戸時代の女性庶民の日常生活を、家庭、家事、結婚、出産、育児、学問、遊び、みだしなみ、働くこと、苦界、女芸人の項目をたてて構成している、極めて興味深い書である。江戸時代は、庶民が経済力を持った、国民生活史上の一変容期であったという。



〔メディア〕

メディア・リテラシー教育 学びと現代文化



D・パッキングラム/著
鈴木みどり/監訳 世界思想社
2006年12月 3360円

メディア・リテラシーの教育者や研究者、学びたい人に向けて、理論的な背景から現在の到達水準、将来の展望まで、豊富な事例を交えて論じる。

大発見! 人権教育と情報・メディア教育のコラボレーション

桂正孝/監修 森田英嗣 矢野洋/編
明治図書 2006年9月 2163円

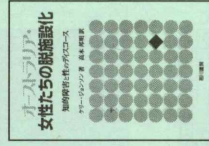
民主主義の展開にとって不可欠なのが「人権教育」と「情報・メディア教育」。この2つがコラボレートして、実践的な展開がなされるはず。本書で扱っているのは、そうしたコラボレーションの理論化と実践例。



子どもと親と教師のためのサイバー・リテラシー ネット社会で身につける正しい判断力
矢野直明・サイバー・リテラシー研究所 合同出版 2007年1月 1680円
インターネットのしくみやメールの使い方などのガイドブック。これからのIT社会を生きるために、子どもに正しい判断力を身につけてもらおうという本。

〔高齢・福祉〕

オーストラリア・女性たちの脱施設化 知的障害と性のディスコース



ケリー・ジョンソン/著 高木邦明/訳
相川書房 2006年10月 2625円

知的障害をもち、かつ問題行動があるとした障害者の大規模施設ヒルトップの鍵のかけられた部屋に住む、21人の女性たち。著者は2ヶ月間こころうした女性たちと生活をともにし、彼女たちの脱施設化の状況をまとめた。

介護保険の再出発 医療を変える・福祉も変わる



宮武剛/著
保健同人社 2006年7月 2000円

05年の大幅見直しで「予防とリハビリ」に力点をシフトした介護保険制度。「施設頼み」を脱却しようという方向であるが、それに伴い医療や福祉はどうかわるのか。「介護保険の再出発」を探る。

やさしい介護 目で見える介護 ストレスをためない家族介護マニュアル



読売新聞社生活情報部/編
生活書院 2006年10月 1890円

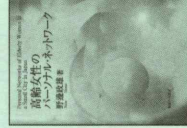
2002年～2006年まで読売新聞朝刊に連載された大きな話題となった在宅介護のシリーズ記事の単行本化。写真、イラストが満載で、最新の情報も盛り込まれ、介護者がストレスをためない介護のありかたが、ていねいに詳細に、わかりやすく書かれている。

老いの近代史、昭和期の老い、老いとのかの出会いといったテーマが語られる。1999年に岩波書店発行の「日本の50年、日本の2000年」というシリーズの1冊であった「老いの近代」を、加筆訂正したものの。巻末に上野千鶴子の解説付。

高齢女性のパーソナル・ネットワーク

野邊政雄/著 御茶ノ水書房
2006年12月 6720円

地方小都市に住む高齢者のパーソナルネットワーク(同居家族、近隣関係、友人など)とソーシャルサポートを調査。高齢者が主観的に幸福を感じる要因は何かを探っている。



老いへのまなざし 日本近代は何を見失ったか?

天野正子/著 平凡社 2006年12月 1260円

〔雑誌〕

国際女性 No.20



国際女性の地位協会 2006年12月 3150円
特集は女性差別撤廃委員会「最終コメント」のフォローアップ、間接差別。執筆者には、赤松良子(巻頭言)、目黒依子、山下泰子、中島通子、宮地光子、堀口悦子、辻村みよ子ほか。2005年12月～2006年女性差別撤廃条約に関する国内文献リストや事務局活動報告など、グローバルな視点から「平等」について学ぶ人々には貴重。

らいてうの家 信濃に誕生 あでら307号

あごら新宿/編 BOC出版部 2006年9月 1050円
報告「『平和・協同・自然のひろば』らいてうの家を育てる」(米田佐代子)ほか。

共同参画21 27 / 共同参画21 No.28

内閣府/編集協力 ぎょうせい
2006年11月 600円
2007年1月 600円



〔平和・開発・エコロジー〕

ユニセフ・カンボジア事務所で働く 国連若手職員の3年間



藤原幸恵/著 明石書店
2006年11月 2100円
国連職員としてユニセフのカンボジア事務所で働いた著者の報告。国連職員が現場でどういう仕事をしているのかがよくわかる。

わたしが戦争に向き合うとき わたし・記憶・平和の選択



米田佐代子/著 ケイ・アイ・メディア
2006年12月 735円
「戦争の時代」に少女期、青年期を生き、戦後は平和構築を求めて女性史を研究し続けた著者が、自らの体験をふまえながら、戦争の真実を忘れてはいけないと語る。
「へいわの灯火 ブックレット」第4巻

危ない！戦争がつくられる 一庶民の反省と不安

青木みか/著 風媒社 2006年10月 840円
著者はもう80才になる戦中派。『主婦からプロへ』の共著者。「あいち女性九条の会」でも活躍している。「金輪際、戦争はダメ」と。

枝廣淳子の回収レポートをたどる旅

枝廣淳子/著 七つ森書店 2006年11月 1680円
通販生活(カタログハウス)の連載。「もったいない」を実践している様々な人・グループの苦勞が記されている。ペットボトル、携

帯電話、衣料、放置自転車やパソコンなどが、どのようにリサイクル、リユースされるかを読んでいると、私たちの価値観や暮らしぶりについて、考え直すきっかけがつかめそう。

季刊 ピープルズプラン 36

ピープルズプラン研究所/編
ピープルズプラン研究所 2006年12月 1365円
特集は「安倍のナショナリズム・その脆弱さ」。上野千鶴子「安倍新保守政権の読み方・処方」他。

〔資料〕

世界の人権 2006 アムネスティ・レポート



アムネスティ・インターナショナル/編
アムネスティ・インターナショナル日本/発行
現代人文社・大学図書/発売
2006年11月 3150円
アムネスティ・インターナショナルの英話版年次報告書2006の翻訳。世界中の国の人権確立(侵害)状況が国別にまとめられている。

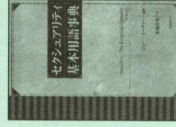
女性参政関係資料集 女性参政権60周年記念

(財)市川房枝記念会 (財)市川房江記念会
2006年11月 2625円
「女性と政治」の分野で定評ある資料集。
第一部：政治への参画 第二部：公職への参画 第三部：世界の女性と参政権 第四部：女性参政権年表など



セクシュアリティ基本用語事典

ジョー・イーデー/編著 金城克哉/訳
明石書店 2006年12月 7875円
セクシュアリティに関して、約400のキーワードを抽出。その語の意味ばかりでなく、その言葉の背景、それを巡る議論なども紹介している。「セクシュアリティ」というのは「概念の戦い」である」という。



人間開発報告書を読む

足立文彦 古今書院 2006年12月 2940円
「GEM指数(ジェンダーエンパワーメント指数)の発展本として知られている『人間開発報告書』であるが、きちんと読んで使いこなすのは、大変なようだ。本書は、国連開発計画から1990年以降毎年発行されているこの報告書を鳥瞰するための要約本。

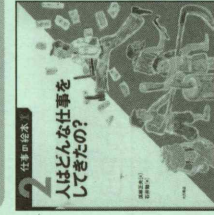


日本軍「慰安婦」関係資料集成

鈴木裕子 山下英愛 外村大/編
明石書店 2006年12月 36750円

〔絵本・こども・青少年〕

人はどんな仕事をしてきたの? 仕事の絵本2



浜林正夫/文 石井勉/絵
大月書店 2006年11月 1890円
原始時代から21世紀まで、人はどんな仕事をしてきたのか。時代とともに変わる働き方を紹介。

仕事のつながり仕事のしくみ 仕事の絵本3



大谷猛夫/文 もりおゆう/絵
大月書店 2006年12月 1890円
食べるものや着るものを作る仕事でも、人のお世話をする仕事でも、文章を書く仕事でも、それはみんなつながっていて、そのすべてで社会がつくられていくというお話。

ミニコミ・ミニコミ

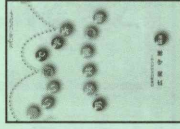
ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です

<単発もの>

■「お先に自由に働いてます」
家族・自分・仕事を大切に
ワーカーズ・コレクティブ近畿連絡会
2006年11月 735円



■「ちよっという話で学ぶ 男女共同参画」
広岡守穂・編著(アバンセ・ブックレット)
(財)佐賀県女性と生涯学習財団
2006年6月 500円



■「松井やより 全仕事」
女たちの戦争と平和資料館
2006年11月 1575円



■「自分で輝く太陽になるためにーワーカーズコレクティブ学習会講演録
ワーカーズ・コレクティブ近畿連絡会 2006年11月 420円

■「ささえあおう 子育てと自分育て」 広岡守穂(アバンセ・ブックレット)
(財)佐賀県女性と生涯学習財団 2006年6月 300円

■「ピラール・フリアスさん証言録」旧日本軍性奴隷被害者女性の声
旧日本軍性奴隷問題の解決を求める全国同時企画・京都実行委員会
2006年11月 525円

■「置き去りにされた朝鮮人「慰安婦」
女たちの戦争と平和資料館 2006年8月 1575円

■「DV救済現場における二次被害の実態ー被害当事者へのインタビューから 矢野裕子 2006年3月 525円

<シリーズもの>

■「いこ☆る」第10号 特集:いこ☆るの風を全国に 均等法から20年アナン・バランスからジャンプ!

■「季刊ji・MA」第25号 70代笑美婚の効用

いま編集部 2007年1月 480円

■「女たちの21世紀」No.48 特集:不安の動員 守られるのは誰の安全なのか アジア女性資料センター 2006年11月 1260円

■「女のためのクリニックニュース」No.259 中絶減少の新聞報道について考えたこと/260 代理出産報道について/261 女性のための得ずる別れ方って? <どの号も女と健康フェスティバル報告あり> ウィメンズセンター大阪 2006年11・12月・2007年1月 420円

■「教育大阪 Vivo la Vita」663号 親と子のコミュニケーション/664号 学校って何だ!?!/665号 これからの学校
(財)大阪府教育振興公社 2006年12月・2007年1・2月 350円

■「くらしと教育をつなぐWe!」145号 特集:つながりを取り戻す/146号 特集:希望を組織する
フェミックス 2006年12・1月 800円

■「Green Letter」VOL.44 インタビュー『男』悩みのホットライン 三宅克英 大阪心のサポートセンター 2007年1月 525円

■「ことば」27号 シンポジウム ことばとジェンダーのこれからを考えるー寿品晶子さんの志をうけついで
現代日本語研究会 2006年12月 2100円

■「里の家だより」No.64 女性が働き続けるために/「絵本春夏秋冬」18号(秋み込み) アフリカの絵本いろいろ
里の家編集スタッフ・里の家絵本の部屋 2007年1月 375円

■「シネマ・ジャーナル」Vol.69 映画祭大特集 第19回東京国際映画祭レポート ほか
テス企画 2006年12月 800円

■「消費者情報」No.376 特集:「老」の現場/No.377 医療サービスは今.../No.378 崩壊する安全 なぜ繰り返される製品事故
(財)関西消費者協会 2006年11・12月・2007年1月 500円

■「職場の人権」43号 労働者の実像を求めてー私の研究テーマと方法/44号 職場のハラスメントを考えるー声をあげること
研究会「職場の人権」 2006年9月 840円

■「女性としごと」No.46 ワークライフバランス 仕事にゆとりを! 労働大学出版センター 2006年12月 500円

■「しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西 NEWS」Vol.4 児童扶養手当削減反対の書名活動を展開中!/Vol.5 児童扶養手当削減の見直しを国会議員に陳情しよう!
NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西 06年10・12月 420円

■「世界女性会議 ネット関ニュース」No.62 「改正教育基本法」〜葬られたジェンダー平等〜
世界女性会議ネットワーク関西 2007年1月 630円

■「それゆけ女たち」No.160・161 連載「セクハラ裁判の陳述書から」/ミートイニング報告 若者はなぜ3年で辞めるのか? ほか
セクシャルハラスメントと闘う労働組合はあぶる
06年12月・07年1月 210円

■「パワーアップニュース」VOL.52 滋賀県 朽木學道 飯高航石さんインタビュー
パワーアップ・ブランニング 2006年11月 315円

■「ファイト・バック」Vol.68 サバイバーからの手紙(9)監禁事件の本質 性暴力を許さない女の会 2007年1月 525円

■「フェミニストカウンセリングニュース」No.56 「改正均等法」本年4月から施行 ほか
日本フェミニストカウンセリング学会 2007年1月 315円

■「Voice」第164号 婚外子差別撤廃、つくれ住民票!裁判裁判は結審にならず、継続となりました!!
なくそう戸籍と婚外子差別・交流会 2006年11・12月合併 210円

■「VOICE OF WOMEN」No.277 12月例会報告 天皇制とフェミニズム第二弾!皇室の性と生殖を考える
日本女性学研究会 2007年1月 158円

■「月刊むすぶ」No.430 不法投票を前面撤去!/No.431 電気ショックは嫌だ!/No.432 原発なしが一番!
ロシナンテ社 2006年11・12月・2007年1月 840円

■「れ組通信」No.231 アメリカの中間選挙/No.232 2007年に向けたメッセージ れ組スタジオ・東京 2006年12月・2007年1月 525円

■「女(わたし)のからだから」No.250 もっと知りたい!ニカラグアの状況はどうなっているの?/No.251 2006年の女性の健康と権利について10大ニュース直前準備号
SOSHIREN・女(わたし)のからだから 06年12月・07年1月 315円

編集長の著者インタビュー

女の遺言 わたしの人生を書く

麻鳥澄江・鈴木ふみ著 御茶の水書房
2730円 2006年11月

「遺言」の一般的な目的は、「親族間の相続財産争いの未然防止」なのかも。しかし、本書という「遺言」の意味は、もちろん、別にある。生きていることの宣言・これが、「女の遺言」のもつ意味なのである。

女性運動活動家、ペットと暮らす独身女性、親から性的暴力を受けた人、多様な性を生きる人々・・・この本では、まず、30代から80代までの8人の女性たちの物語があり、じっくり、ゆっくり、「それぞれの生きてきた道」を語りあう。その中から「遺言」が生まれるわけであるが、その「女の遺言」は、おのず

著者インタビュー 第24回

『女の遺言』の著者

麻鳥澄江さんに聞く



麻鳥澄江さん(左)と
共同執筆者の鈴木ふみさん(右)

Q:「遺言」というと、「誰にどのくらい残すか」の話とわれがちですが。

A:国連報告で「女性は、成人人口の2分の1、全労働の約3分の2を占めているにもかかわらず、世界の所得の10分の1しか受け取らず、世界の資産の1%しか所有していない」と報告されたように、女の財産の額は微々たるものです。そうした女に財産を回さないからくりが続く中で、自分の財産を、血縁関係にはない女たちに遺す方法を考えつつ、この本ができました。

法律の枠内で自分の財産を遺す先を選び取るには、工夫が必要なのです。ですから、この本には、遺言の書き方の法律的なヒントも詳細に入れています。

Q:まず、遺言を書いてみようかと考える8人の語り手が登場します。架空の人物とこのことですが、どの人も、典型的な「家族」を作った女性ではないですね。

A:そうですね。「期待される母像」からはずれた生き方は、実は私たちの中に、確実に存在します。

と、それまでの人生の道筋や人間関係が反映されたものになっていく。

例えば、自分の死後、共同生活人が、今住んでいる家に住み続けるためにはどうした方がいいか。親族にはではなく、活動仲間や貯金を遺すにはどうするか。財産はないけれど、「友人への感謝の言葉」を遺すにははどうするか。

「期待される母像」に取り込まれていない8人の女性たちの物語は、私たち一人一人の物語と連なっていく。本書を読むと、「死」を考えることにより、自らの生きてきた過程を反芻し、今生きている意味を宣言しよう」というメッセージがストンと胸に落ちてくる。

8人が、それぞれの人生を語りつつ、遺言のことを考えると、「女が遺言を書く」ということは、女性たち一人一人がぶつかる壁や希望を明らかにして、「わたしの人生を書く」ということなのだというところに結びついていきます。

Q:「今の社会の成り立ちが、そして隠されてきた女性の歴史が見えてくる」とあります。

A:その通りなのです。全世界に網を張られたような資本主義の現実、男女区分を筆頭に様々な区分で差がつけられて、この男性社会が成り立っています。これまで男性が書いてきたお金関係だけの「遺言」には、生きてきた人間関係の支配関係しか反映されません。女の財産の額は小さいですが、生きてきた関係を大切に、女が女と約束しつつ、血縁関係にとらわれずに財産をひきついでいく・・・そうした幾重にも重なる女たちの物語が、「女の遺言」の展開であり希望です。

Q:この本をどんなふうに使ってほしいですか？

A:どこからでも読んでもらえるように作ってあります。遺言そのものは、書いても書かなくてもいいのですが、自分のことを、誰にも、なんにも言っていない人にも、是非読んでほしい。そして、できたら、老後を分かちあえる友人・・・私は「パジャマ友だち」と呼んでいるのですが・・・そんな友だちと「今」を生きていけるといいですね。

(聞き手:森屋裕子)

麻鳥澄江さん

(「ジョジョ金画」設立 すべーす・アライズ室長)

HOT・FILE

会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください

書評

おんなたちの運動史

わたくしの生きた戦後

吉武輝子/著

ミネルヴァ書房

2006年12月

2730円

(中西豊子)

女性たちは戦後参政権を得たといっても、男社会の意識は旧態依然たるもので、社会も、教育現場も、家庭も差別に満ちみちていた。信じられないような女性30歳定年制や、結婚退職制度が当たり前だった職場を変える為に、また暮らしや平和を守るために、沢山の女性たちの大変な闘いがあった。本書は、アメリカ兵から集団暴行を受けたという著者自身の体験も含め、サブタイトルの通り、自分史に沿って書かれていて、身近に起こったこととして臨場感がある。物資不足食糧不足に立ち向かう女

たちへの闘いから、安保闘争、全共闘やリブのことまで、沢山の歴史的な一こまも。

著者自身が、反戦と女性解放への思いをぶらさずに、何十年も闘ってきたひとだから、女たちの様々な運動を生き生きと伝えていて共感できる。この堅固な男性社会の規範をこじ開けようとしてきた女

たちの思いを共有してもらいために、若い人たちには是非読んでいただきたい1冊だ。



ウィメンズブックス

WEBからの風

『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです

ウィメンズブックスストア 11・1・2月ベストセラーTOP5

- 1 労働ダンピング
中野麻美/著 岩波書店 819円
- 2 ジェンダー論の教え方ガイド
沼崎一郎/著 フェミックス 1260円
- 3 ジェンダー入門 知らないと恥ずかしい
加藤秀一/著 朝日新聞社 1365円
- 4 子どもが出会う犯罪と暴力
森田ゆり/著 日本放送出版協会 777円
- 5 ぽーっとしように養生法
田中美津/著 三笠書房 580円

女性センター、
女性政策課、研究室、
図書館向けサービス

リストアップ、各種配本の迅速手配、
データ管理、コーディングなど

WEBショッパ展開中

<http://www.womens-books.jp>

(ゆう刊社長日記 ゆう刊先代日記 ゆう刊あまちゃブログ更新中)

メルマガ発信中

月一回の配信。編集長からのオススメ新刊本案内が中心です。
登録はinfo@womens-books.jpまでどうぞ

原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよせください。
次号の締め切りは2007年5月5日です(発行予定日2007年5月25日)

〇 自費出版承ります。ご相談ください。〇

店舗/ウィメンズブックスストア ゆう

〒540-0008 大阪府中央区大手前1-3-49 ドーンセンター1F
電話 06-6910-8627 FAX 06-6910-6115
E-mail info@womens-books.jp
郵便振替口座 00900-5-309395

火～金：午前10時から午後7時
土・日・祝：午前11時から午後6時30分
定休日：月曜 ドーンセンター体館日

「ウィメンズブックスクラブ」入会のご案内

- メール FAX 電話のご注文で迅速発送
- 送料：会員割引サービス。会員の方には、入金確認前でも発送いたします。
- 年間900冊の新刊書籍情報、ミニコミ案内、特集などを掲載した機関誌「ウィメンズブックス」を年4回お送りいたします。
- 会員のみさまの著作紹介、関係する冊子などの委託販売をお受けします。
- 入会は随時受け付けています。詳細はご連絡ください。
- 年会費(年度は4月から翌年3月・入会金は不要です)
個人会員 3000円
海外会員・団体会員 3800円

リスト書籍をご希望の方へ

同封の振込用紙の通信欄、又はFAX注文表に書名、書籍代消費税込み)を書いてお申込ください。下記の送料共でお振込ください。HPのご注文欄やメール・電話でのご注文もお受けいたしております。

※ リスト書籍以外のご注文もお受けいたしております。

〈送料〉

書籍代(消費税込み)が15000円以上の送料は無料

個人会員

書籍代(消費税込み)が15000円未満の送料は上限300円

海外会員・団体会員 別途請求をさせていただきます

■ ゆう だより

◎ 柳沢厚生労働大臣の「女性性は産む機械」発言をきいて、30代の女ともだちが「ああ、やっぱり、そうなんだあ」と言っていました。「政治家たちは、やっぱり、私たちのことを、年金や経済成長を保障するためのコマとしてしかみていないんだ」という意味です。

「子どもを産むことは、崇高なこと」などと、時代がかった言い訳しか並べない首相のことも含めて、ほとほと、失望した様子でした。

◎ しかし、野党の「辞めろ！」の合唱にもかかわらず、女性たちの動きがそれほど鋭くないと感じるのは、私だけでしょか。

野党政治家(主として男性)たちの姿が、選挙目当てだけにみえて、かっさくなくなったからなのではないかと、私は思っているのです...

◎ そうした中에서도、子育て支援策について、集中審議の席で、根源的なところから質問し、今回の暴言をテコにして進んでいこうと動いていた政治家(女性)もいました。また、地方自治体でも、小金井市の議会では、議長(女性)が中心になって、いちはやく抗議の決議をあげています。

根本的なところから、政治家の有り様を変えていきたいものです。◎ 折から、今年は、統一地方選挙の年。NPO法人フィフティネットなどが事務局になって、「07年女性と政治キャンペーン」(URL: <http://www.josei-seiji.com>)を展開します。

ジェンダーに敏感な視点をもった女性が意思決定の場にもっともっとたくさんいないと、ダメですね。

◎ あれこれ忙しうし、怒りまわっている間に、ひどい風邪にやられてしまいました。

周期的にくるふらつきが止まらなまま、ようやく入稿にまでこぎつけた「New24号」です。ご意見、感想など、いただけたらうれしいです。

次号は、春爛漫の5月にお届けします。このときには、社会が、よいニュースで満ちていきますように。

(ウィメンズブックス編集長:森屋裕子)